

コンテンツ制作現場から見た デジタル教材の現状と課題

対馬 英樹†

概要

本講演では、コンテンツ制作現場から見たデジタル教材の現状を紹介し、その課題を指摘する。また、教材開発の立場から、この分野に関わる研究者の方々への期待を述べる。

Current Status and Issues of Digital Learning Materials from the View of Commercial Contents Development

Hideki Tsushima †

Abstract

In this lecture, we give a talk on current status and issues of digital learning materials. Furthermore, we talk about our expectations for SSS and the researchers in this field.

本講演では、長く教材のデジタル化、デジタル教材の開発にかかわってきた講演者が、コンテンツ制作の現場から見た現状をまとめ、その課題を指摘する。また、教材開発の立場から、この分野に関わる研究者の方々、および、SSSへの期待を述べる。

e-learningの普及、デジタル教科書の推進とともに、従来からある教材のデジタル化、新しいデジタル教材の開発が進められている。そんな中、今後のe-learning普及の鍵の1つに、魅力ある教材コンテンツの制作がある。

実際の教材コンテンツの制作においては、制作者はさまざまな様々な課題に直面することになる。教材設計のモデルなどの提案は多くされているが、教材コンテンツ制作現場においては、担当編集者、教師など制作者の経験に負うところが少なくない。デジタル教材独自の勘どころ、のようなものも存在し、制作者同士でもその勘どころを共有することは容易ではない。

また、コンテンツ制作において大きな問題となるのがコストである。映像を含めた動きのある教材コンテンツの作成には、膨大なコ

ストがかかる。いかに安価に質の高いコンテンツを制作していくかも、今後の大きな課題である。

e-learningの運用面では、ログインすらしてくれない学習者がいかにモチベーションを高めてもらうか、という課題も発生する。また、掲示板などのサービスをどこまで管理するのが適切か、といった観点は、特に学齢が低い学習者が対象の場合には丁寧な設計が必要となる。

デジタル教材において重要なコンテンツの1つに、テスト問題がある。アセスメント自体もデジタル的に行うというCAT(Computer Adaptive Test)も多く行われている。これは、IRT(Item Response Theory)という数理モデルを基礎にして、各学習者の能力を測定するのに最適な問題を提示していこうというものであるが、数理的なモデルとしてのIRTを活用するだけでは解決しない、実際にアセスメントを運用していく中で発生する悩みも多い。

非常に多くの学習者を対象としたコンテンツを制作している立場から、上記のような課題を述べたい。この分野の研究をされている方々に新たな視点を提供できれば望外の喜びである。

† ㈠ベネッセコーポレーション
Benesse Corporation